

【今週の注目疾患】

《後天性免疫不全症候群》

厚生労働省は、2006年以降、毎年6月1日から6月7日までの1週間を「HIV検査普及週間」と定め、都道府県等や公益財団法人エイズ予防財団、エイズ関連NGOなど関係団体と協力して、オンライン開催を含めた普及啓発イベントを実施している¹⁾。

2025年第21週に県内医療機関から2例届出があり、本年の累計届出数は19例となった（図1）。

性別では、男性18例（95%）、女性1例（5%）であった。病型別では、無症候性キャリアが11例（58%）、AIDSが6例（32%）であった（図2）。

図1：2016年から2025年までの県内の後天性免疫不全症候群
診断年別届出数（2025年第21週時点）

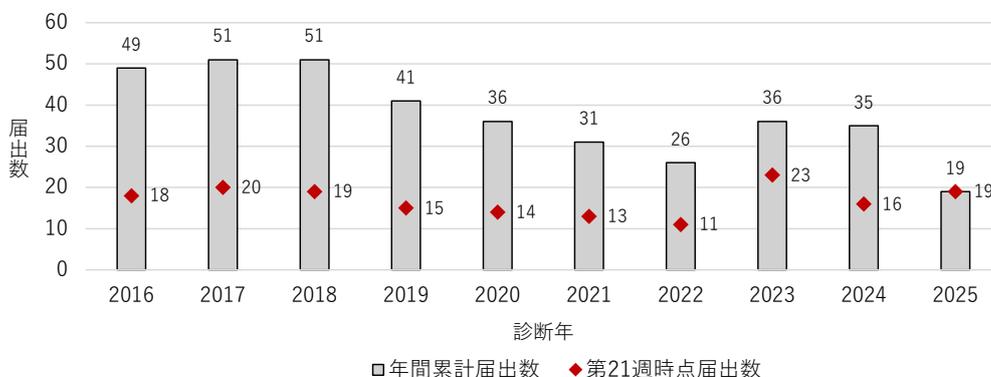
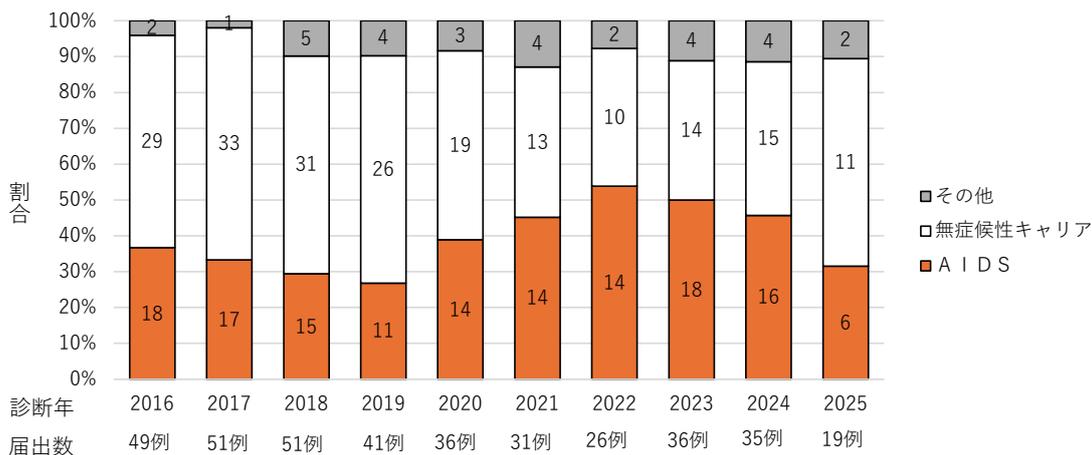


図2：2016年から2025年までの県内の後天性免疫不全症候群
診断年別病型別届出数・割合（2025年第21週時点）



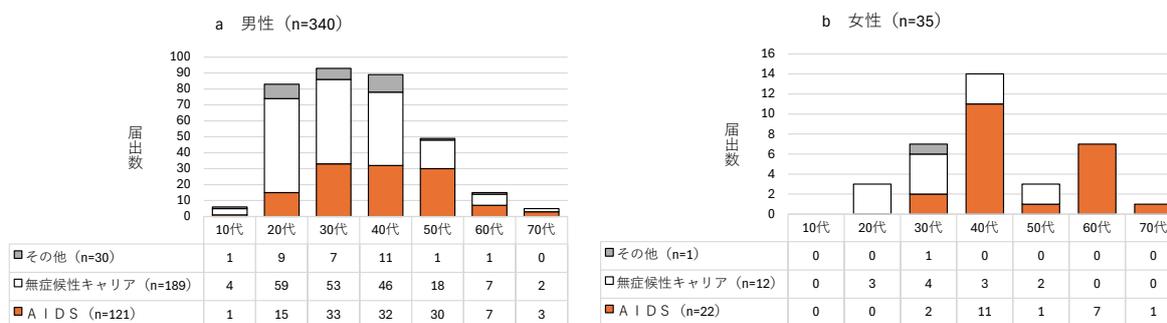
2016年から2025年第21週までに届出のあった375例の概要は以下のとおり。

性別は、男性が340例（91%）、女性が35例（9%）であり、男性が約9割を占めた。

病型別は、男性では無症候性キャリアが最も多く189例（56%）、次いでAIDSが121例（36%）、そのほか30例（9%）であった。一方、女性ではAIDSが最も多く22例（63%）、次いで無症候性キャリアが12例（34%）、そのほか1例（3%）であった（図3）。

年齢群別では、男性において、届出数の多かった20代から40代では、AIDSと比較して無症候性キャリアの割合が高かった。女性は40代が14例（40%）で最も多く、そのうちAIDSが11例（79%）と8割近くを占めた（図3）。

図3：2016年から2025年までの県内の後天性免疫不全症候群
性別・年齢群別・病型別届出数（2025年第21週時点）



後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus ; HIV）に感染することで免疫不全が生じ、健常者では通常見られないさまざまな日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態をいう。HIV感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、AIDS発症期の3期に分けられ、時間が経過するとともに免疫システムの破壊が進行するため、早期診断、治療がとても重要となる²⁾。近年、さまざまな研究において、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のウイルス量が検出限界値未満（Undetectable）のレベルに抑えられているHIV陽性者からは他の人に伝播しない（Untransmittable）こと（U=U）が分かってきており、早期治療の開始で新たな感染を防止する（Treatment as Prevention; T as P）という考え方が主流になってきている。

千葉県では無料・匿名の検査を実施しています

県では、保健所等において無料・匿名のエイズ等の検査を実施しています。感染が気になる方や不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールをご確認の上、ぜひご活用ください³⁾。

■参考・引用

1)厚生労働省：H I V検査普及週間に向けたイベントを実施します

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000206538_00023.html

2) 国立健康危機管理研究機構：AIDS（後天性免疫不全症候群）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/aids/010/aids-intro.html>

3)千葉県健康福祉部疾病対策課：千葉県内のエイズ等相談・検査

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>